



山行報告

七時雨山(6月3日～4日)

参加者 会員(障害者4名、健常者7名)
会員外(健常者1名)

6月3日

関東は、時折雨がぱらつくような天気だったが、一ノ関付近から青空が広がってきた。新幹線はやての車窓からは、残雪の岩手山などが大きく見え始め、期待が膨らむ。

いわて沼宮内下車し、タクシーに分乗して七時雨山荘に向かう。藤が咲き、家々の庭には、無数の花が咲き競っている。新緑の中を走り抜け、田代平高原に着くと七時雨山荘はすぐそこだ。小屋に入り、不要な装備を置かせていただき、そのまま七時雨山に向かう。山荘の脇では、早速、オオヨシキリがギョギョシという大きな声で迎えてくれる。

昨年、七時雨山に登ろうとしたが道に迷って登れなかったというMさんに案内してもらいながら登りはじめる。道の脇には、ワラビやタラノメが芽を出している。周囲には山菜取りの人たちがたくさんいた。

標識は、直進となっているが、昨年これに従って間違ってしまったというMさんの言うとおり、左側に登っていく。牧場の中は見晴がよい。振り返ると田代山が、牛が座っているように佇んでいる。足下の牛の糞を踏まないように、注意しながら進む。草原が切れ、樹林帯に近づ

いたが、道らしいものがない。ガイドブックを見させていただいたりして確認したら、たぶん下の標識どおり、直進するのが正しかったのではないかと思われた。下まで戻るのは、せっかくここまで上がってもったいないので、牧場を横断することにした。途中、沢を横断するところが、かなりぬかるんでいて、苦労して渡る。

沢を渡ってさらに牧場を行くと、登山道に合流した。この少し上が二合目だった。ここで昼食にする。周囲は、緑の中にタンポポの黄色が鮮やかだ。



七時雨山山頂にて

ここから、牧場の淵を右に回り込むように登ると、登山道に入る三合目だった。美しい新緑を楽しみながら、高度を稼ぐ。タチツボスミレがたくさん咲いている。クルマバツクバネソウも咲いている。六合目を過ぎるとシラネアオイも咲いていた。

右手の樹林の間から山頂が見える。もうすぐだ。九合目から一旦少し下り、右手の切れたところを通過すると、北峰に到着。早く着いたメンバーは、南峰を往復することにする。急な斜面を下り、さらに登り返す。登山道には、キク

ザキイチゲが咲いていた。南峰は北峰以上に展望がよい。目の前に岩手山が高く聳え、八幡平へ続くなだらかな尾根が見渡せる。岩手山の左手には、きれいな三角の姫神山が見える。

南峰へ戻り、全員揃って記念写真を撮る。山頂を後にして、下りにかかる。下りは快調だ。遠くに聞こえていたジュウイチが、突然近くに現れて、みんなで鳴き声を覚えた。下っていくとキビタキの声も聞こえた。

草原に出て、車の通れる道に出ると、間違った道に戻る右側の道を使わず、そのまま牧場の中を進む。行き先は、駐車場だった。しかし、これも失敗だった。「遠回りして帰ろう〜」という歌を思い出しつつ、牛たちの脇を通り、沢を越え、車道を歩いて山荘に戻った。

夕食はバーベキュー。牧場にいた牛さんのお肉をもらうことになった。風呂上がりのビールも美味しく、みんなで腹一杯になるまでバーベキューをいただいた。

6月4日

今日は、午前中に田代山の往復をする。

朝食を少し早くしていただき、7時35分に出発する。カッコウは、昨日も一日中鳴き続けていたが、今日も早朝から鳴き続けている。牧場の中の道を登りきったところで一休み。この付近は、アズマギクがたくさん咲いている。

登山道にはいると、今度はチゴユリとタチツボスミレの群落が次々に現れる。こんなにたくさんのチゴユリを見たのは、ここがはじめてかも知れない。しばらく登っていくと、白花のタチツボスミレ、別名オトメスミレが咲いている。オオヤマオダマキはまだつぼみだった。斜面は急だが、ジグザグに登るため、わりと楽な登りだ。

樹林がまばらになると、稜線が近い。笹原の稜線には、フデリンドウやセイヨウタンポポが咲いている。展望の良い笹原を登っていくと、頂上直下の急登となる。笹原の中の盛り上がり

たところに道がついていて、踏み外さないように登っていく。左手にムラサキヤシオが咲いていた。最盛期には、この稜線がピンクに染まるという。あと2週間後くらいだろうか？



山頂に到着すると、360度の展望が広がる。南に七時雨山と岩手山、七時雨山の右手には残雪を抱いた八幡平が広がる。北西側に見えていたのは、白神山地かなと思ったが、八甲田山や十和田湖周辺の山だったようだ。稜線を吹き抜ける風がひんやりと心地よい。山頂で50分の大休止を取り、名残惜しい山頂を後にする。

今日も下りは順調だ。登ってくる時はあまり花が開いていなかったミツバツチグりが、日を浴びたせいでろうかきれいに花開いている。陽射しが暑く感じるようになった頃、登山口に下り立った。山荘に帰って、汗を流す。小屋の周囲でゆっくりと帰りのタクシーを待つ。パラグライダーが、田代山の稜線から飛び立った。Yさんは、パラグライダーに乗ったことがあるという。今回は、七ツ石山荘まで自転車 came。個性豊かなメンバーと楽しい一時を過ごすことができました。ありがとうございます。

最後に、短歌を作ってみましたので、掲載させていただきます。

雪残る 岩手の山を 仰ぎつつ 緑やわらか
七時雨山

田代山 ヤシオツツジに 迎えられ 尾根渡る風
どこかやさしく

こころよき 人に囲まれ 七時雨 一夜の憩い 温もりの宿

コースタイム

6/3 七時雨山荘(10:50)...二合目(12:00,12:30)

帝釈山・田代山(6月24日～25日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

湯の花温泉の茅葺き屋根の民宿「山楽」にタクシーに6時に来てもらって出発する。昨日より、雲が多く青空は望めそうにない。しかし、雨は大丈夫そうだ。

猿倉登山口でタクシーを降り、登りはじめる。早速ラショウモンカズラが迎えてくれる。登山道の脇には、ミツバオウレンやマイヅルソウ、ゴゼンタチバナなどが咲いている。下りは少し滑りそうだが、しっかりと手入れをされた道を順調に登っていく。「ここが最後の水場」というところを過ぎ、しばらく同じような登りが続く。ペニサラサドウダンやムシカリも咲いている。木道が現れると、すぐに小田代だった。湿原には、ヒメシャクナゲやコイワカガミのピンク、タテヤマリンドウの紫、そして、チングルマやワタスゲの白がちりばめられて、美しさに歓声が上がる。



モウセンゴケ

さらに一登りで、広い湿原のある田代山に到着

...七合目(13:25,13:35)...七時雨山北峰(14:15)...七時雨山南峰往復...七時雨山北峰(15:00)...七時雨山荘(17:20)

6/4 七時雨山荘(7:35)...田代山(9:10,10:00)...七時雨山荘(11:05)

した。花々が咲き乱れる、その向こうには、会津駒ヶ岳だろうか雪を抱いた山々が見える。色とりどりの花の脇には、モウセンゴケが虫を捕まえている。よく見ると、モウセンゴケもなかなか美しい。

いろんなお菓子をいただき大休止。ジュウイチが、すぐ近くで「私はここにいるよ」と訴えているように「ジュウイチジュウイチ」と鳴いている。ホトトギスも負けじと鳴いていた。

田代山をあとにし、帝釈山に向かう。次々に現れる湿原に歓声を上げながら、あの世を歩いているようだと言葉。

避難小屋を過ぎると残雪の上を少し歩く。その先からは、オサバグサの天下だった。行けども行けども、斜面一面を白く染めている。一つ一つの花は小さいけれど、無数の鮮やかな白色が目を惹く。



サンカヨウ

しばらく歩き、湿地状になると、サンカヨウも咲いていた。白い花が手毬のようにまとまって咲き、大好きな花の一つだ。帝釈山まではなかなか遠い。そろそろ時間が気になりだしたが、山頂への岩道を頑張る。アズマシャクナゲ、ハ

クサンシャクナゲ、もう一種類のツツジは、ムラサキヤシオツツジだろうか？ 足下にはイワナシがピンクの花を付けていた。



予定時間をオーバーし、11時30分に帝釈山に到着。残念ながらガスって、何も見えない。時間がないので、さっと昼食を取り、そうそうに出発する。岩場の難所を過ぎたころ、雨が降り始めた。

栗駒山(7月1日～2日)

参加者 会員(視覚障害者2名、健常者2名)

7月2日

前日は、雲が厚かったものの、時折日も差す天気だったが、今日は小雨が降っている。天気予報は、雨がやや強く降る予報だ。



今日の予定コースは、東栗駒山経由で登頂する予定だったが、雨のため、中央コースに変更する。一晩お世話になったいこいの村栗駒からバスでイワカガミ平に送っていただく。ここから、

田代山へのトラバースにかかったころ、予約をしていたタクシーには連絡が取れないため、私が1人で先に下ることにした。もう難所を過ぎていていることと、この先には危険なところがないので、Hさん、Tさん、Nさんにあとをお願いする。

1人になって、先を急ぎ、猿倉登山口に14時に到着。5分後くらいにタクシーが来た。湯の花温泉まで戻って、一風呂浴びてみなさんを待つ。なかなか着かず、心配になったが、16時頃到着。このあと、温泉に入って、電車組は長い旅を楽しみました。

コースタイム

猿倉登山口(6:40)...小田代(8:05,8:20)...田代山(8:40,9:15)...帝釈山(11:30,11:45)...猿倉登山口(14:00)

石畳の道を登っていく。登山道の脇には、ウラジロヨウラクがたくさん咲いていた。雨はそれほど強くなく、花には水滴が付いて美しい。

登るにつれて、風が強くなってくる。雨もやや強くなった。右手から東栗駒コースとの道が合流するところには、ヒナザクラがたくさん咲いていた。ツマトリソウは、そこかしこに咲いている。雨に濡れた花の写真を撮ってみる。電子回路だらけのカメラは、濡れると壊れてしまうので、傘を差して撮影する。



ほどなく、山頂に到着。昨日、バスで一緒だっ

た岩崎元郎さんに似た方と、山頂で再会する。しかし、風雨が強く、長居はできない。記念写真だけ撮って、早々に下山にかかる。下山ルートは須川分岐から下りる予定だったが、風が強いので、産沼経由のコースに変更する。

下山にかかると、すぐに風は弱くなった。足下はかなりぬかるんでいるが、雨のためにゆっくり楽しむこともできず、ぐんぐん下っていく。産沼を過ぎると、ハクサンチドリやサンカヨウがたくさん咲いているところがあった。さらに、水量の増した沢を2つ横断する。この付近の沢で、増水時に流されてなくなったパーティーがあると聞いていたが、今日はそれほどではなかった。ただ、水の中にしっかりと入って通過し

水根沢(7月9日)

参加者 会員(健康者3名)

朝、H氏からのメールを見て、埼玉県はかなり激しい雨が降っていることを知る。八千代市はまだ雨が降っていないが、今日の沢登りはあきらめ、ロープや沢靴、ヘルメットなどをおいでいく。

しかし、電車で奥多摩に近づいてもわずかに雨は降ったものの、下りた時には曇り空だった。車できたHさんから、水根まで送ってもらい、今日は予定どおり実施することにした。沢靴を持ってこなかった私は、軽登山靴でそのまま沢に入る。スリッパには注意して、水の中を歩いていく。

小さな滝を超え、山道にかかる鉄製の橋の下を通る。

その後の記憶が定かでないが、小さな滝をいくつ囲えていくと、長細い釜を持った滝が行く手をふさいでいた。ザイルで結び合い、Hさんがザックを置いてトップで、左岸の岩に掴まりながら泳いでいく。滝の水をかぶりながら、左岸の岩を登る。続いてMさんが行く。左岸の岩

た。

しばらく行くと、名残ヶ原の湿原に到着する。木道の上を歩きながら、ミズバショウやワスレグを楽しむ。硫黄の臭いが強くなり始めると、須川温泉の駐車場が見えた。脇を流れる川は、入るにはちょうど良い温度だった。温泉に入ってから汗を流し、全て着替えて、ここからタクシーで一ノ関に下った。

コースタイム

7/2 イワカガミ平(8:00)...栗駒山(9:45,9:55)...
須川温泉(13:00)

をへつって行っただが、Hさんからせっかくだから釜に入って登った方がよいとアドバイス？を受け、釜まで下って登り返す。続いて私の番だ。Hさんと同じように、水に浸かっていく。足は下に付かない。水の中から、左岸の岩に掴まって登る。



ここから、さらに小さな滝を超えて行くと、釜のあるトイ状の滝にぶつかった。さすがに今日は寒く、もう濡れたくないという話になり、巻き道を探す。左側に踏み後があり、登ってみたが、その先はすとんと落ちて下るのは無理だった。ここは、大きな木を使って、懸垂で下りるべきだったかも知れない。

それではということで、左岸側に登って高巻

くことにする。しかし、かなり急な斜面で、木の根に掴まりながら登った。伐採のあとが出てくると、登山道に飛び出した。中途半端で少し残念だが、今日はここまでとして登山道を下ることにした。

また、暑い日に來ることにしよう。

両神山(7月16日~17日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

7月16日

私の持っている地図は、古いためか、日向大谷口は両神山荘から30分ほど下にあるのだが、バスは山荘のすぐ下の駐車場まで運んでくれた。

歩き始めてすぐに両神山荘に着いたため、まずは昼食にする。昼食後、小降りの雨の下を、雨具を付けて出発する。沢の左岸側を通るため、左側は切れ落ちているところが多く、注意しながら登っていく。コースタイムを少しオーバーする時間で会所に到着する。休憩したすぐ下に沢があり、そこで麓でKさんが買ったキュウリを洗う。

沢にかかった丸木橋を慎重に渡り、産泰尾根を回り込むようにして、薄川側に入る。今回は、Mさんに先頭を努めてもらっている。2カ所ほど道を間違ったが、Yさんに教えていただき、順調に登っていく。沢を4回渡り返し、急坂を登り切ると、白藤の滝への分岐があった。行ってみようということになり、4人で行ったが、かなり下るため、滝を見たのは二人だけになってしまった。落差は30mくらいだろうか、細い流れを落としていた。

ここから少し登ると、弘法の井戸があり、美味しい水を飲むことができた。清滝小屋はすぐ上で、受付を済ませ中に入る。小屋の管理人さんと、以前、視覚障害者の人たちと登ってきた

コースタイム

水根バス停(10:45)...入溪(10:55)...2番目のゴルジュ入り口付近(12:10)...登山道(12:47)...水根バス停(13:25)

グループのリーダーが、私たちの会員でもあることなどを話し、和やかな雰囲気でお小屋泊まりを楽しんだ。夕食は、美味しいカレーだった。



清滝小屋に到着

7月17日

明け方から、小屋の屋根を叩く雨音がしている。みなさんの意向を聞いたが、山頂に行きたいという方とここに留まるという方がいたので、山頂に行くグループは、6時10分に小屋をあとにして出発した。

雨の中、急な登りを頑張り、七滝沢への分岐を過ぎると、鎖場の連続するさらなる急登になる。鎖場は5カ所ほどあっただろうか？ 傾斜が落ちてくると両神神社に到着した。ここから尾根上を赤いテープの付いた道と、印はないがしっかりした道が、平行して伸びている。あとで、小屋の方に聞いたら、白井差コースが閉鎖になったことと関連し、私有の道を通らないコースをあとから開いたそうだ。

レンゲショウマのつぼみがたくさんあるトラバースを過ぎ、岩場が出てくると、ベンチが現れ、両神山の山頂はそのすぐ先だった。残念ながら遠くまでの展望は得られなかったが、近

くの山がガスの中から姿を見せていた。山頂で記念写真を撮影し、下山にかかる。



濡れた岩場で滑らないように、慎重に下る。両神神社を過ぎ、少し下ったところで、下から声が聞こえる。何と、Hさんが登ってきたのだ。昨日のメールで、日帰りで追いかけると聞いていたが、雨だから来ないだろうと思っていた。元気な声を聞いて、みんな大喜びだ。山頂まで「往復しては」とみなさんから意見が出たが、ここから引き返してくださるといふ。

ぐんぐん下って、清滝小屋で待っていたTさ

剣山(7月27日～29日)

参加者 会員(障害者4名、健常者3名)

7月27日

今日は、飛行機で徳島まで来て、鉄道で貞光まで、そこからタクシーで見ノ越に入った。タクシーは、途中で土釜という、迫力のあるゴルジュに立ち寄ってくれた。足がすくむような岩場を急流が白いしぶきを上げて流れていた。

昨日、夕立があったということで、今日も見ノ越が近づいたころから雨が降り出した。カッパを着てリフトで、西島まで行く。そこから最短コースを通過して剣山頂上ヒュッテを目指す。少し歩くと、刀掛に到着。ここで私1人で、キレンゲショウマの開花状況を見に行く。ズルズルと滑り落ちそうな足場の悪いところを下っ

んと合流し、ゆっくり休んでから、下山にかかる。沢の増水は心配したほどではなく、順調に下っていく。会所の下で休憩し、予定より1本早いバスに間に合うようにYさんとMさんに先に下っていただくことにした。あとのメンバーは、Hさんの車に乗せていただくことにして、少し遅れてスタートする。

右側の切れ落ちた道を順調に下って、12時に両神山荘に到着した。最後は、薬師の湯に入って汗を流し、三峰口駅から池袋行きに乗って帰った。

コースタイム

7/16 日向大谷口(11:40) ... 両神山荘(11:45, 12:10) ... 会所(12:50, 12:55) ... 清滝小屋(15:20)
7/17 清滝小屋(6:10) ... 両神神社(7:10) ... 両神山(7:50, 8:00) ... 両神神社(8:25, 8:30) ... 清滝小屋(9:10, 9:55) ... 両神山荘(12:00)

て見ると、咲いたキレンゲショウマが5株ほど見つかった。

みなさんに報告し、明日は、みんなで来ることにする。刀掛からさらに登ると、頭上に小屋が見える。雨も上がり雲も切れそうだ。ヒュッテに着き、すぐに風呂に入る。山頂の小屋に風呂があるなんてありがたい。夕食後、夕日の写真を撮りに山頂に登る。ガスが切れて、金色に輝く夕日が美しかった。

7月28日

今日は、次郎笈と一ノ森に行く、今回のメインコースだ。小屋の前から日の出を仰ぐ。雲の間から出てきた太陽は、真っ赤だった。小屋の親父さんも、こういうのは珍しいという。

何時でも良いと言ってくださった朝食は、5時にいただき、不要な荷物を預かったいただき、

次郎笈に向けて出発する。



真っ赤な日の出

剣山頂からは、南西側に次郎笈、西に三嶺、北に丸笹山などが見えて、すばらしい展望だ。空には雲一つない。少し急な下りを過ぎると、すぐに楽な道となり、笹原のためすばらしい展望を満喫しながら歩く。周囲には、トゲアザミやタカネオトギリソウ、イヨフウロなどが咲いている。飛んでいた蝶は、ウラギンヒョウモンだった。



剣山山頂にて

次郎笈の登りにかかると、剣山の方からホラ貝の音が聞こえてくる。急な登りを頑張っていると、ホラ貝の音が近づいてくることが分かった。よく見ると、白装束の人が二人、こちらに向かって登ってきている。

傾斜が落ち、次郎笈に着くと、白装束のお二人も山頂に到着し、ホラ貝の音を聞かせていただく。この様子は、しっかりとビデオに収めさせていただいた。

私は、足下にある葉に付いた朝露が、きれいな水滴を作っていたので、三脚を使って撮影させてもらおう。Mさんは、ホラ貝を吹かせてもら

ったそうだ。

次郎笈からは、三嶺方面に下り、トラバースルートから戻ることにする。トラバースルートは道の細いところもあり、注意して通過したが、途中にあった水場の水は、つめたくてとても美味しかった。

剣山頂上ヒュッテに戻り、パッキングし直して、一ノ森に向かう。陽射しが強くなり、入道雲がもくもくと成長を始めていた。一ノ森の山頂直下には、一ノ森ヒュッテがあったが、ここには寄らずに、3人は休憩し、4人だけで一ノ森に登った。



次郎笈をバックに剣山に戻る

ここから、今度は、剣山をトラバースして、刀掛に出るコースに行く。所々棧道もあり、慎重にトラバースしていく。行場からは、小さな沢沿いを上に登るコースを取る。ここにもキレンゲショウマがあったが、咲いているのは一株だけで、それもかなり上のため、がっかりだった。

さらに行くと、クロジが「フィーチヨチヨピチュピチュ」と囀っている。よく見たら、すぐ近くの木の枝に止まっているではないか。写真は暗くてブレブレだったが、ビデオに収めさせてもらった。今回は、ホトトギス、カッコウ、ツツドリ、コマドリ、ミソサザイ、ウグイス、オアバトなどの声を聞くことができた。

昨日見つけたキレンゲショウマへの道との分岐で、視覚障害者の人たちには待っていただきたい、3人で往復して、キレンゲショウマを確認する。そこでは、シカが近づけないように、網を張る作業中だった。キレンゲショウマは、

数年前までは一面を埋め尽くすくらいにあったが、坂に食べられて相当減ったという話をしてくださった方がいた。数年前のテレビ撮影の時は、斜面に綱を張って、カメラを移動させてキレンゲショウマを撮影したそう。その方から、なんと「実は私が信男です」という言葉が飛び出した。剣山頂上ヒュッテの2代目経営者だそう。信男さんの話では、「失恋はしたことはない」そう。



ウラギンヒョウモンとトゲアザミ

早々に戻って、待っている人たちと合流し、西島まで戻る。ここで、少しNさんの調子が良くないようなので、3人はリフトで下るといふ。あとの4人は、登山道を下った。ウグイスやゴジュウカラが近くに現れて楽しませてくれた。

リフトの駅に3人がいなかったため、円福寺に先に行ったのかと思い、円福寺に行ったがまだ誰も来ていないという。私がもう一度ロープウェイの駅に戻っていたら、Tさんの姿が見えた。ロープウェイ乗り場の下の茶店で、お茶を飲んでいたので。

円福寺は、貸切状態で、どこでも自由に使うという。風呂で汗を流し、豪華な夕食を食べて、眠りについた。

7月29日

円福寺は、朝食もすばらしい。さらにパスポート入れのお土産までいただいてしまった。

円福寺をあとに、車道を夫婦池に向かう。道路脇には、コオニユリが咲いていた。夫婦池からは、樹林帯を丸笹山を目指して登り始める。ウグイスの音がすぐ近くで聞こえる。休憩していたら、大きな蛇が笹原に入っていた。かなり大きなアオダイショウだったようだ。

土の道で、とても歩きやすい。樹林帯を抜けると、笹原となり、すばらしい展望が広がる。右手には、昨日登った剣山と、次郎笈、さらに一ノ森も見える。振り返ると、三嶺、手前に塔丸、その右手奥には矢筈山も見えている。山頂に到着し、さらに東側を見ると、遠くにかなり高い山も見える。四国は、山が多く、剣山周辺は、とても山深いところだなと感じた。

笹原には、イブキトラノオが穂を持ち上げ、山頂近くには、赤いシュロソウも咲いていた。山頂からは、来た道を引き返し、見ノ越からは、バスを乗り継いで阿波池田駅まで行く。途中、かずら橋、大歩危、小歩危を経由していった。

琴平では、途中下車をして、金比羅山をお参りする。下りてから、温泉に入って、汗を流し、打ち上げのあと、坂出から寝台のサンライズ瀬戸に乗り東京に向かう。

コースタイム

- 7/27 ロープウェイ西島(16:35)... 剣山山頂ヒュッテ(17:45)
- 7/28 頂上ヒュッテ(5:50)... 剣山(6:00)... 次郎笈(7:20,7:50) ... 剣山頂上ヒュッテ(9:45,10:10)... 一ノ森(11:05,11:45)... 刀掛(13:45,13:50)... ロープウェイ西島(14:05,14:10)... 見ノ越(14:55)
- 7/29 見ノ越円福寺(6:40)... 夫婦池(7:30)... 丸笹山(8:30,8:45)... 夫婦池(9:30,9:55)... 見ノ越(10:30)

臼杵山・市道山および雁ヶ腹摺山は、雨のため中止しました。

七時雨山・田代山にて(俳句)

投稿者：H

七時雨山へ

新緑の七時雨山に頭下れ

泥道を抜ければ草原若緑

木漏れ日の林に入れば百舌の声

助けられ七時雨山の六月を

万緑にはらからの声齧して

歩を止めて二人しずかと二三言

ほととぎす声響かせる三合目

延齡草二人しずかと共に咲く

夏帽子取って峠の景色かな

おちこちに白根葵やひと休み

汗しつつ励まされつつ頂へ

樵若葉分け入りて行く祈りつつ

岩手山に再会せしは若葉道

頂や巡る新緑匂い立つ

耳すませじゅういちの声捉えたり

急坂の足元照らす若楓

田代山へ

あずま菊かたわらに見て登山口

舞鶴草白き花群右左

郭公の声下に聴く田代山

行くほどに色鮮やけしすみれ草

風もよし新緑もよし田代山

喘ぎつつチゴユリの坂登りきり

踏みしめて新緑の野を見下せり

りんどうに心惹かれて下り坂

咲き初めしやしおつつじに別れ来て

若葉風パラグライダーにやさしけれ

山菜の話訛もあたたかく

紫の滝とも見えて山の藤

声上げて指さし愛でる藤の花

ローカル線車窓に白し大てまり

その他事業報告

知的障害者研修(友愛みどり園)(7月15日)

参加者 会員(障害者3名、健常者11名)

的障害者通所厚生施設の「友愛みどり園」の方から研修会を開催していただいた。自閉症を中心として、知的障害者の特徴や接し方など、大変有意義なお話しをお聞きすることができた。

今後、知的障害者の人たちとのハイキングや登山を開始するに当たって、八千代市にある知

今後、研修で得た知識を元に、友愛みどり園の職員さんの協力を得ながら、ハイキングに取り組んでいきたいと思えます。

第1回ふれあいキャンプ(境溪谷)(8月19日～20日)

参加者 会員(障害者4名、健常者12名)

会員外(障害者1名、健常者2名)

影にかくれたところを狙うのがこつだ。水の噴き出している下の岩にたくさんかくれているので、I君やKさんがずぶぬれになってマスをたくさん掴まえてくれた。共同作業で石の下に追い込んで掴まえたり、こちらも童心に返って楽しむことができた。

今回、初めての試みとして、子どもたちにも参加してもらえ、第1回ふれあいキャンプを東京都奥多摩の境溪谷キャンプ場で開催した。

19日にキャンプ場に入り、昼食後、河原に下りて水遊びを行った。水着を準備した人や着の身着のまま川に入り泳ぐ人などで、童心に返って遊んだ。



川に入って泳いだメンバー

午後3時頃からマスの掴み取りをはじめた。マスは元気にいけすの中を泳いでいるため、石の



マスを掴まえたI君

マスの掴み取りに夢中になっている時、炊事班はすでに料理をはじめていた。野菜を切り、コック長の指示でマスのはらわたを出し串に刺したり、ちくわと大葉、それにガリを巻いてつまようじで刺す料理も作っている。

火をおこすのに時間がかかったが、赤々と燃えた火に網を載せマスを焼いたり、鉄板でジンギスカンを作ったりした。ビールでの乾杯。そして歌あり踊りありの夜の部へ。夜のとばりが下りるころキャンプファイヤーの火が燃え上がり、最高潮に達しました。いつの間にか寝て

しましたが、バンガローのテラスで、遅くまで飲むグループもあったようです。



夜の部の始まりです

翌朝は、6時前に起きだした人たちが早々に朝食づくりにかかりました。お釜で焚いたごはん

が美味しかったと評判でした。40個の卵を鉄板に流し込むと、こぼれたりして悲鳴が上がります。そんな和気藹々のキャンプ場を9時頃あとにし、奥多摩むかし道を歩いて奥多摩駅に向かいます。むかし道のすぐ脇には、昔の軌道あとがあります。トンネルもあり、どんな歴史があったのか気になりました。

奥多摩駅の近くで解散し、希望者だけでもえぎの湯に入って帰りました。はじめてのキャンプでしたが、みなさまのご協力のおかげで、無事に楽しく進められたことを感謝します。

奥多摩境溪谷第1回ふれあいキャンプに参加して

8月19日、朝に出発して、昼について食事をすませて、いざ、川遊びへ！

水に入るのをいやがった人たちも平野さんに、水をかけられ川に入ることになりましたが入ってみると気持ちよく最後には、みんな泳ぎ始めて、川の水はけっこう冷たく深い場所もあって私も最高に気持ちよかったです。

その後、鱒のつかみ取りをやって19匹中5匹捕まえました。子供たちもいたので、みんなずぶぬれになって、必死で取りましたが、最後の1匹がどうしても見つかりません。夜は、ジンギスカンとマスで大宴会です。

その後、私のギターと中谷さんのハーモニカで、みんなで歌い花火を上げて大変盛り上がりしました。しめは、野菜たっぷりの焼きそばです。そして、部屋に帰って飲みなおしました。

8月20日

朝ごはんは、かまでたいためしとトン汁とウインナー、いり卵などご飯が美味しくて3杯おかわりしちゃいました。デザートは杏仁豆腐もおいしかったのですが、最後には、残り物を整理するはめになって、これでもかと食べました。そして、久しぶりの朝ビールで350ml缶を2本飲みました。

その後風呂であせを流しましたが昼食は、おなかがすかないので枝豆を三つつまみだけでジョッキを一杯飲みました。

久しぶりの休日だったのでやりたいことを全てやってきて楽しかったし、初めて参加する人もいたので、みんなで協力して一人一人が何らかの役割を担って作り上げたイベントでした。皆さんありがとうございました。

記：K

視覚障害者全国交流登山富山大会への参加(8月26日～27日)

富山三つ星山の会主催で、富山県の立山周辺で視覚障害者全国交流登山大会が開催され、山仲間アルプからも5名が参加しました。



すばらしい天気恵まれ、私たちは雄山を登るハードコースと室堂周辺を散策する祖父とコースに別れ、歩きました。ハードコースの参加者は、富山三つ星山の会の視覚障害者の方をサポートしました。



夜は、交流会でした。富山玲声民謡研究会による「越中おわら節」などの歌と踊りで楽しみました。

翌日は、称名の滝を見るオプションツアーに参加し、迫力のある滝を間近で見ることができました。いろいろな会の方と交流を図ることができ、有意義な一時を過ごしました。

各種連絡事項

登山日程の変更について

11月19日に予定していたリーダー養成コースの矢岳ですが、事務局の都合で11月

12日に変更させていただきます。誠に申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします。

理事会の議事録

7月31日に開催した議事録を添付しまし

た。

来年度の山行計画委員会のメンバー募集

来年度の山行計画委員会のメンバーを募集中です。メンバーになっていただける方は、事

務局までお知らせください。

ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、7月末日現在約30000のアクセスがありました。ホームページは、機関誌に掲載できない多くの写真が掲載されています。パソコンをお持ちの方は、ぜひご覧ください。さらに、メールを使える方同士で、メーリングリストも運営していますの

で、パソコンをお持ちの方で、メーリングリストに参加を希望される方は事務局まで申し込みください。また、各種情報も迅速に流しています。もし、これからパソコンを購入したいという方がいましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

今後の計画

2006年度事業計画の一部訂正

11月19日に予定していたリーダー養成コースの矢岳を、事務局の都合により、1週間

早め、11月12日(日)に変更させていただきましたので、よろしくお願いします。

個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が

大です。もしもの時のために、必ず提出するように心がけてください。

【スポーツ保険のご紹介】

山仲間アルプで加入しているスポーツ保険は、掛け金が年間(4月1日から翌年3月31日まで)1,500円で、下記の補償があります。

- | | |
|-----------|--|
| 1. 障害保険 | 死亡 2,000 万円、後遺障害 3,000 万円、入院(日額)4,000 円、通院(日額)1,500 円 |
| 2. 賠償責任保険 | 身体賠償(1人 1 億円、1 事故 5 億円、免責 1,000 円)
財物賠償(1 事故 500 万円、免責 1,000 円) |
| 3. 共済見舞金 | 160 万円 |
| 4. 注記 | 雪山や沢登りなど、ザイル、ピッケル、アイゼンを使うような山は、保険金の対象となりません。そのような山に行かれる方は、各自山岳保険に加入願います。 |

会員情報

新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)
賛助会員

編集後記

・理事長のつぶやき

子どもたちを対象としたふれあいキャンプは、こちらの準備が遅かったこともあり残念ながら、多くの子どもたちに参加していただくことができませんでした。このことは今回の反省事項として次回に生かしたいと思

います。また、知的障害者の人たちとのミニハイキングも9月に入って第1回目を実施します。ぜひ、みなさまのご参加をお願いします。

さらに、様々な事情で親と一緒に暮らせな

くなり、児童養護施設で暮らしている子どもたちに、今後ぜひ山を共に楽しむことのすばらしさを伝えたいと思っています。山の自然のすばらしさ、障害を持っても明るく元気に生きることの大切さ、そして自分のためではなく人のために当たり前のように一緒に山を楽しんでいる人たちに接することで、多くのことを学んでくれるのではないかと思います。

また、先日、大原の児童養護施設「子山ホーム」に入っている高校1年生と中学1年生

の子が、将来は保育士さんになりたいという文を読ませていただきました。親に恵まれないう大きな障害を持つ子どもたちが、人の役にたちたいと思うのは、子どもたちの世話を親身になって行ってきた保育士さんたちの努力のたまものなのではないでしょうか？ この子どもたちと接する中で、私たちはこの子どもたちに与えるもの以上に多くのものをもらえそうだと感じています。早く子どもたちと山を楽しみたいと思います。

・次回発行予定は、12月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

